

# 新病院建設地市民説明会

# 新病院の建設に向けて

未来のかたちを創造する

## いのちの未来プロジェクト

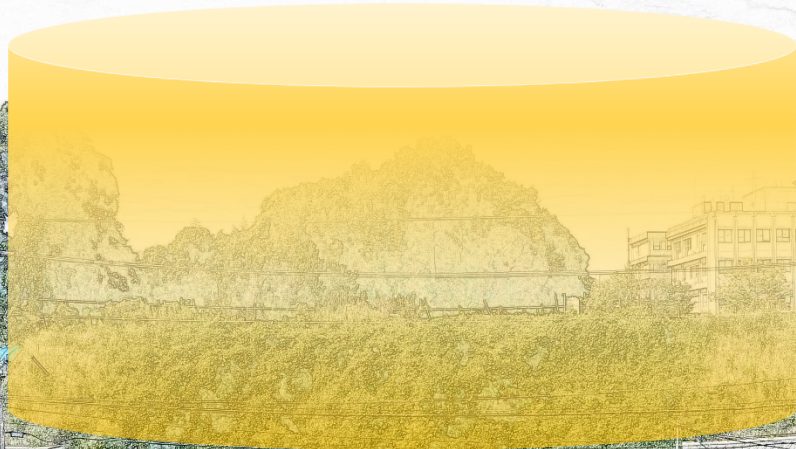
今のいのちを守るため、これからのいのちも守るために

良質な医療を安心して受けることができる場所に！

未来の高度医療に対応！未来の建替えにも対応！

有明医療圏域のいのちの砦であり続けるため

新病院の建設地を決定しました。



# 理念と目指す方向性

## 理念

「荒尾市民病院は、地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。」

## 方向性

- 脳卒中や急性心筋梗塞など重篤な疾患に、24時間体制で対応
- 地域救命救急センターの指定を目指し、循環器系疾患を中心とする対応を充実させる。
- 医師をはじめ、救命救急に関する医療資格者を確保する。
- 民間医療機関が提供困難な、高度医療、救急・小児・周産期・災害医療などの不採算・特殊部門に関わる医療や、感染症医療等の政策的医療について充実させる。
- 新病院建設を契機に災害拠点病院を目指し、災害医療を充実させる。
- 小児医療の更なる拡充、強化を図る。
- 地域包括ケアシステムの中心的な役割を担う。
- 疾病の重症化予防のため、認知症コホート研究等に積極的に取り組む。

# 市民病院の4つのつよみ

## がん

＜国指定地域がん診療連携拠点病院（県内7病院）＞

【24時間365日対応】

荒尾・玉名地区では荒尾市民病院のみ。

- がんの適切な治療の提供
- がん患者の地域医療機関との連携による診療
- がん医療に関する情報提供および相談支援

## 脳卒中

＜脳卒中(急性期・回復期)拠点病院＞

【24時間365日対応】

- 患者来院後1時間以内に脳卒中の専門的治療開始可能

※県内でも数少ない病院の1つ

- 再発予防の治療対応可能
- 専門的なりハビリテーションの実施

## 急性 心筋 梗塞

＜急性心筋梗塞(急性期・回復期)拠点病院＞

【24時間365日対応】

- 緊急心臓カテーテル検査に対応
- 心大血管疾患リハビリテーションの実施

## 救急 医療

＜救急医療（救急告示病院）の充実した機能＞

【24時間365日対応】

- 県内に9名しかいない救急指導医が常勤
- 独立した診療科としての救急科の存在
- 熊本県版ドクターヘリ事業への参画

# 建設地は「現地」

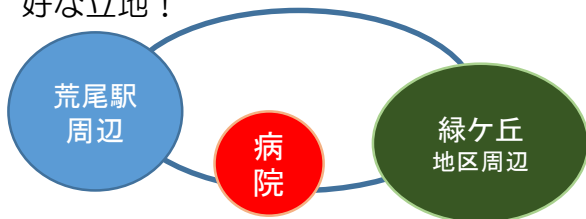
「市民病院敷地とその隣接地（現地）」に新病院を建設します。  
建設地については現在の敷地約3haと南西部の民有地約1haを取得して新病院を建設する予定です。

Point 1

## 利便性

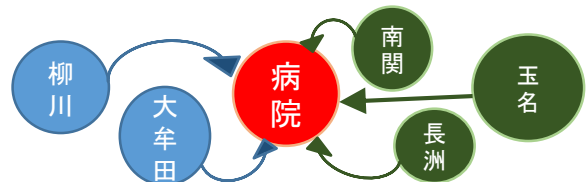
荒尾市民

2核のまちの間に位置しアクセス良好な立地！



有明医療圏域の住民

国道208号や国道389号、将来は有明海岸道路からも容易にアクセス！



中核病院の機能を安定的に果たせる場所

現地に建設地を決めた  
3つのポイント

Point 2

## 拡張性

医療制度や、医療需要の変化に柔軟に対応可能！

敷地面積4ha  
医療施設の増設が可能

将来の建替えも十分可能な広い敷地

Point 3

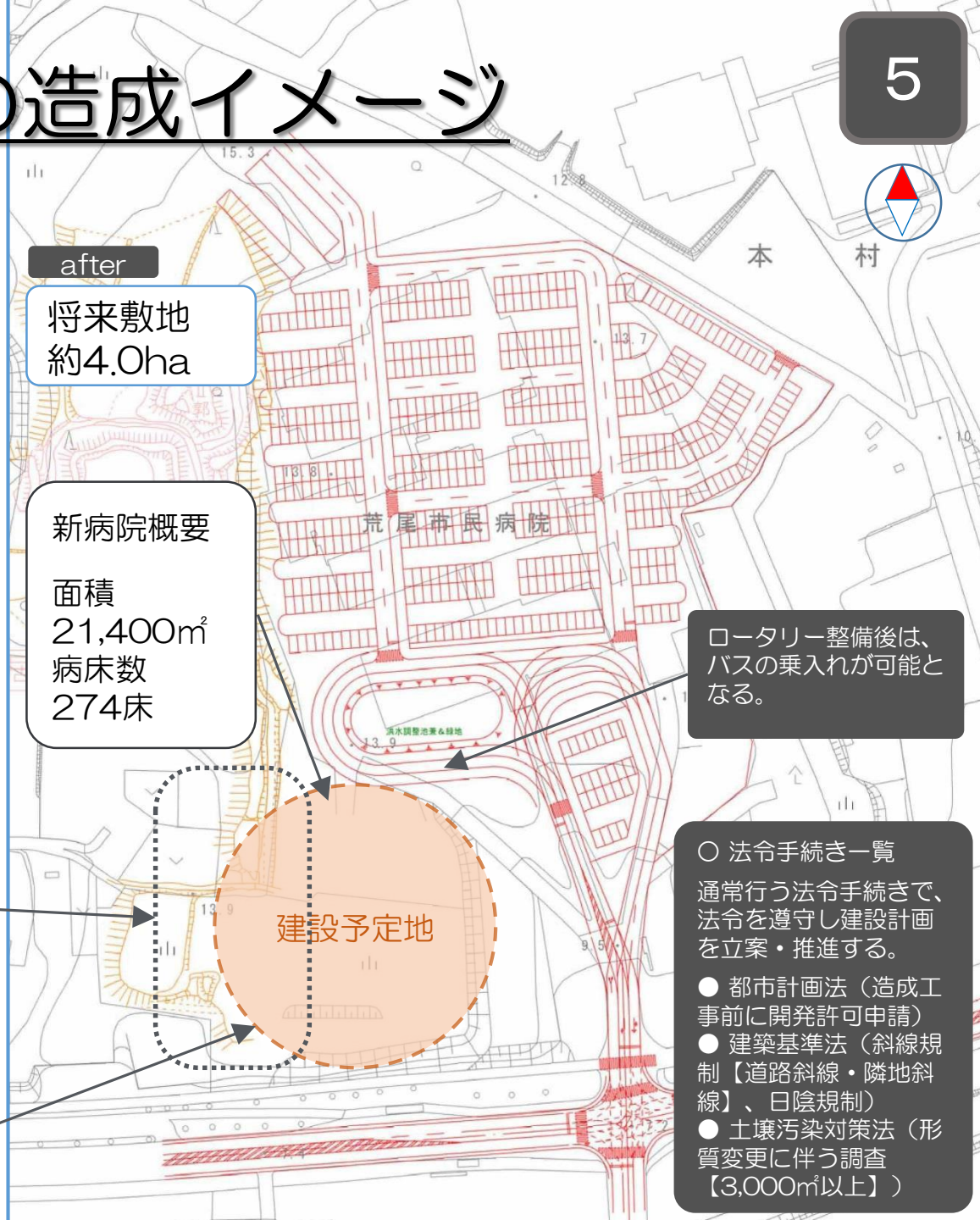
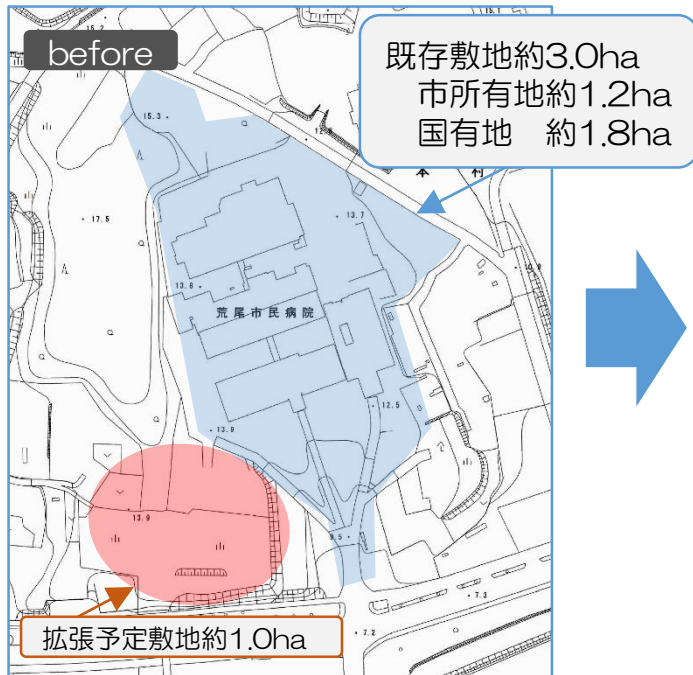
## 容易性

都市計画の変更など困難な法令手続き無し！

通常行う法手続き等（開発行為・建築基準法等）のみで、新病院の開院が確実に見込める！

# 新病院建設地の造成イメージ

## 建設地について



### ● 文化財調査

本村居館跡に関連する文化財調査を行う範囲

### ● 建設予定地

地権者の皆様から土地のご協力をいただきながら建設を進めていきます。

ロータリー整備後は、バスの乗入れが可能となる。

### ○ 法令手続き一覧

通常行う法令手続きで、法令を遵守し建設計画を立案・推進する。

- 都市計画法（造成工事前に開発許可申請）
- 建築基準法（斜線規制【道路斜線・隣地斜線】、日陰規制）
- 土壌汚染対策法（形質変更に伴う調査【3,000㎡以上】）

# 建設予定地の現況写真

写真① 現市民病院前面道路から見た建設予定地

撮影ポイント位置図

写真③

写真②

写真①

写真② 建設地南西から見た建設予定地

写真③ 現市民病院から見た建設予定地

# 事業費について

## 費用 内訳

### 総事業費 109億1千万円

(設計費2.8億・病院建設費72億・医療機器等整備費19.1億・解体撤去費4.8億・関連事業費10.4億)

※ 関連事業費の内訳 (用地補償費(国有地含む)6億9千万円・文化財調査費4千万円・造成費3億1千万円)

#### 国からの補助金など

耐震補助金	3億2千万円	(住宅・建築物ストック形成事業)
地方交付税	26億3千万円	(起債額に対する交付税措置分を計上)

### 実質負担額 79億6千万円

## 病院 経営 への 影響

建設費は市民病院が借入れて、約30年で返済する予定であり、第二期中期経営計画の事業収支計画により、十分に対応できることを確認。近年の病院事業の収支の実績からも、事業費については返済可能。

簡易な経営シミュレーションでは、建設費の返済期間は、6年後から25年間に分割返済し、返済額は概ね3億円程度(72億円/25年)に抑えられる。一時的に資金繰りが厳しくなることも予想されるが、市から一定の支援を行う予定。



# 開院予定

8

## 平成34年6月開院予定

※ 開院時期は標準工期で算出しており、発注方式・工法等の工夫により工期短縮に努める。

平成29年度

平成30年度

平成31年度

平成32年度

平成33年度

平成34年度

平成35年度

平成36年度

文化財・土壌調査

補助金申請

用地  
買収

提案  
事業者  
選定  
方式

造成  
設計

開発  
許可

造成  
工事

病院  
設計

建築  
確認

病院  
建設

引  
越  
し

平成34年6月  
開院予定

現病院  
解体

土壌調査  
駐車場整備

※ 新病院開院後、解体・土壌調査・駐車場整備を行う。※ 土壌調査の結果次第では工期短縮の可能性もある。

# 工事期間中の駐車場等

平成32年度

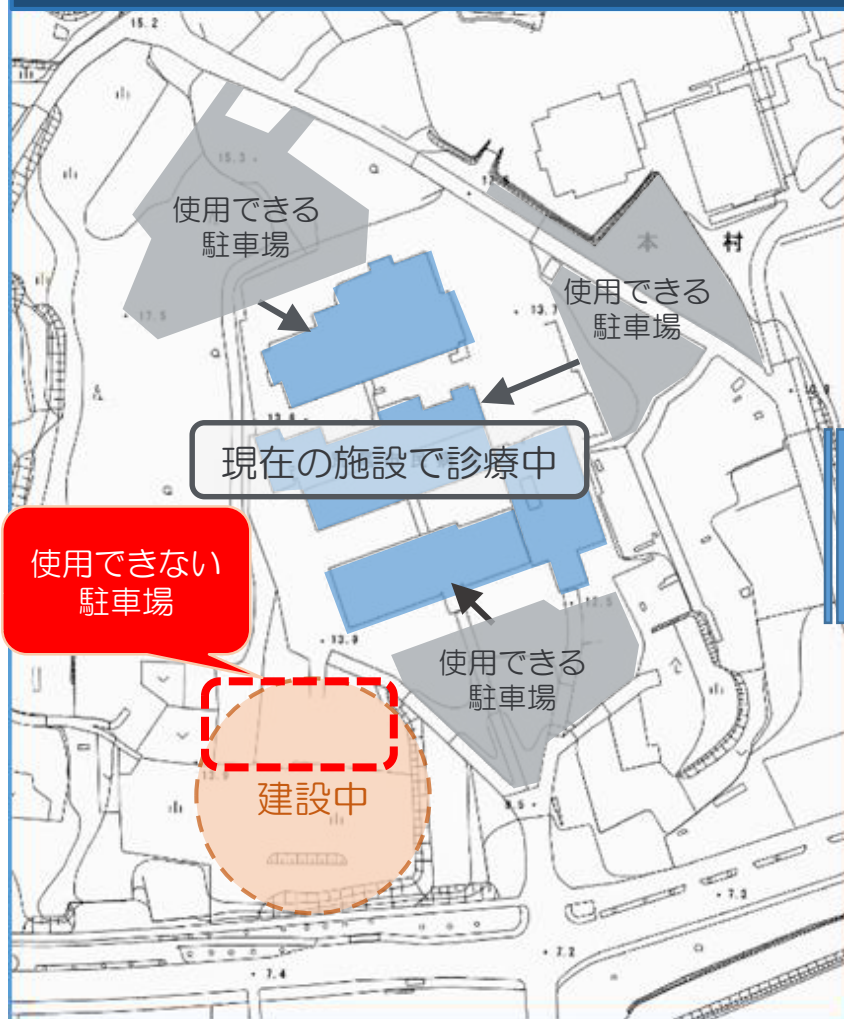
平成33年度

平成34年度

平成35年度

平成36

## 新病院建設の約2年間



## 解体・駐車場整備の約2年間

開院後は、順次解体整備を行い、駐車場の使用範囲を広げていくことを想定し、最終的には700台程度の駐車場スペースを確保。



# ヘリポート整備 (ドクターヘリ)

ヘリポートを整備することにより市民病院へのドクターヘリの発着が可能となることで、救急医療の医療機器を装備したヘリコプターに、救急医療の専門医と看護師が同乗し、いち早く救命医療を開始することができます。

## 運行時間

午前8時30分から午後5時15分まで

※ 要請の内容や日没時間などを考慮して運行時間が変動します。

## 搬送状況

平成28年 ドクターヘリ・防災ヘリ搬送状況  
(1.1~12.31迄)

H28ドクターヘリ、防災ヘリ運行状況：現場出動 5件

平成29年 ドクターヘリ・防災ヘリ搬送状況  
(1.1~9.27現在)

H29ドクターヘリ、防災ヘリ運行状況：現場出動 7件

## 運用

- ヘリポートについては、屋上に設置することを想定。
- ヘリの音は、近接する民家では60デシベル（普通の会話程度）の音が発生。
- 住民への影響を最小限に留めるような、飛行経路等を設定。



# 野外音楽堂の検証

## 判断理由

- スポーツ施設の老朽化に伴い、施設の現行規格での建替えが必要なため、十分な敷地面積の確保は必須であり、運動公園敷地の区域縮小を行うと、スポーツ施設の現行規格への改築更新等が行えない状況となり、将来のスポーツ振興に支障をきたす懸念がある。
- 交通安全の確保のため、中央小学校前の大幅な交差点改良工事が必要となる可能性があり、更に事業費が増大する恐れがある。
- 道路拡幅には用地取得が必要となるが、学校施設や住居等があるため、工事完了時期が見込めず、周辺環境の安全性が損なわれるおそれがある。
- 周囲が都市計画公園であり、医療機能の充実を図るため更なる敷地の拡張は見込めないことから、将来の病院経営に影響を及ぼす可能性がある。

## 結論

野外音楽堂及びその周辺については、新病院の建設地として適当ではない。



# 開院後の市民病院の姿

## ● 充実した医療を提供

がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病・救急・災害・周産期・小児

## ● 医療機能の強化

- 小児科・歯科口腔外科・精神科等の診療機能の強化拡充
- 地域救命救急センターの指定・災害拠点病院の指定等

## ● 利用しやすい環境

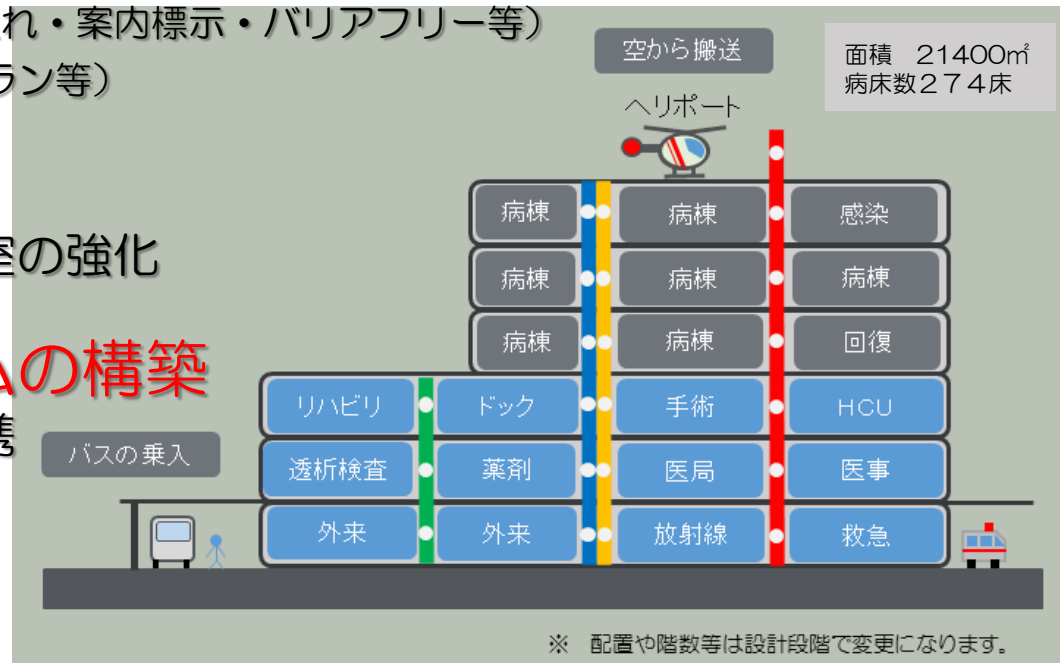
ユニバーサルデザイン（バスの乗入れ・案内標示・バリアフリー等）  
アメニティの充実（カフェ・レストラン等）

## ● 地域に開かれた病院

公開講座の開講・医療福祉相談室の強化

## ● 地域包括ケアシステムの構築

関連施設（介護施設等）との連携



## 新病院の建設に向けて

荒尾市民病院は、昭和16年の創立以来、荒尾市の方はもとより、有明地域の皆さまへ、安心と安全、健康の維持・増進を図るため、質の高い医療を提供してきました。現在も急性期医療を中心に、年間で入院延べ約82,600人、外来延べ約87,000人が利用されており、健やかで安心できる暮らしづくりの一翼を担っています。

また、地域完結型の医療を目指し、地域医療支援病院として、連携の強化と地域の医療の質の向上にも努めております。これまでも365日24時間体制で診療を行い、限られた人材で夜間の緊急手術等にも対応しておりますが、新病院の開院に伴い、医師をはじめ看護師等職員の増員も期待されます。

今後は、新病院建設に向けて、全職員一丸となって、患者さんの人生設計に応じたこれまで以上に質の高い、安心・安全な医療の提供を行い、荒尾市民病院が地域住民の誇りとなるような「いい病院づくり」を目指してまいります。



病院事業管理者 大嶋 壽海

院長 勝守 高士